

役職員とその家族が交通安全誓う

管内警察署に交通安全宣言書を提出



当JAは、秋の全国交通安全運動にあわせて管内警察署に交通安全宣言書を提出しました。宣言書は当JAと関連会社の役職員・社員とその家族6,666人が交通事故防止を決意して署名しました。

9月20日には梶穀組合長が沼津警察署を訪れ、吉田光広署長に本店役職員の宣言書を手渡し「遠距離通勤者が多く、使用する業務車両も多い。無事故・無違反を目指していく」と決意を述べました。



吉田署長(左)に宣言書を手渡す梶穀組合長

いちごサミットで相互連携を確認

スケールメリット生かし協調出荷拡大へ



当JAは10月12日、いちごサミットを伊豆の国市で開き、各地区のいちご生産組織の役員や高木力宮農担当常務などJA役職員の計39人が出席しました。

各産地の特色や課題などを共有したほか、合併により対応可能となった企業向けや業務用規格の出荷実績を報告しました。今後は協調出荷を拡大していくほか、合同での栽培研修など相互連携により産地の維持・発展を目指すことを確認しました。



自地区の特色や課題を説明する生産者

農業振興と経営の安定へ

アグリサミットで協議



意見交換を行う首長ら

当JAは10月23日、沼津市でアグリサミットを開き、沼津市・裾野市・長泉町・清水町の首長をはじめ、東部農林事務所、商工会・商議所、農業委員会のトップらと農業振興や農業経営の安定・発展に向けた意見交換をしました。

国産国産・地産地消に向けた取り組みなどへの協力を求めたほか、「生産振興」、「販売戦略」、「食農教育」の3点を中心に意見が交わされました。JAと行政が方向性を一致したプランを策定し、連携して対応していくことを確認しました。

藤沼和明専務は「資材高騰に拍車がかかり、農家は大変な苦境に立っている。行政とともにできることに取り組んでいく」と話しました。



FUJIZU ふじ伊豆トピックス TOPICS



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

JAふじ伊豆はSDGs「1~17の目標」につながる取り組みを行っています。
各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです

年金友の会イベント大盛況

梅沢富美男劇団特別公演に計1万1,550人来場



当JAは、令和5年度年金友の会のメインイベントとして「梅沢富美男劇団特別公演スペシャルコンサート」を9月、10月に開催しました。9月1日の富士宮会場を皮切りに管内8地区で開催。当JAで年金受給、受給予約の申込をいただいているお客さまを対象に合計1万1,550人が来場しました。

公演は芝居・歌謡・舞踏の3部構成で、梅沢さんの代表曲「夢芝居」などが披露されました。歌唱後には各地区職員が当JA特産品と花束を贈呈。鑑賞したお客さまからは「貴重な体験になって楽しかった」など喜びの声を多数いただきました。

12月15日から29日まで、年金受給者の皆さまを対象にした年金感謝ウィークを各支店で開催します。ぜひご来店ください。



女形で舞う梅沢富美男さん(前列)

農家組合員の意思反映へ

生産組織146組織とJA役職員が意見交換会



JAへの要望と対応策などを意見交換

当JAは、8月から11月にかけて主要6品目(イチゴ、柑橘、ワサビ、花き、水稻、畜産)と地域戦略品目24品目の計30品目で、生産組織146組織と当JA役職員との意見交換会を行いました。

管内8地区で、生産組織代表者と高木力宮農担当常務、営農販売部・経済部、地区本部職員、トップ営農指導員らが出席。生産組織で取り組むべき項目や営農指導員に期待する項目、JAや行政に対する要望など、生産者の実情を交えながら協議しました。

10月20日には富士地区で開催。「後継者不足に対する解決策を考えてほしい」などの意見が寄せられ、高木常務は「いただいた意見を次年度以降のJAの事業運営に反映していきたい」と話しました。

茶かす堆肥の栽培試験で効果

高校生と当JAが落花生の栽培試験で検証



県立富岳館高校の生物生命系列の3年生と富士宮地区営農課は本年度、アサヒ飲料が開発・提供した茶かす堆肥で落花生の栽培試験を行いました。

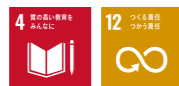
10月に収穫し効果を検証したところ、一般堆肥より2.1倍の収量で規格外品やB品が少なく外観の良い粒も多いことが分かりました。リーダーの桐山菜海さんは「因果関係や落花生の殻の有効活用も検討し、地域農業とSDGsに貢献したい」と話しました。



落花生を選別する生徒とJA職員(右)

茶の入れ方や歴史を学ぶ

JA職員が児童へ手ほどき



当JAでは10月から1月にかけて、管内の小中学校や特別支援学校など26校で職員が講師となり「静岡茶講座」を開いて、茶の愛飲習慣化を図っています。

10月25日には沼津市の愛鷹小学校3年生の児童約100人を対象に開き、茶のおいしさや栽培の歴史などを伝えました。児童は「急須で入れたお茶はいつも飲んでいるお茶よりも味が濃くて香りが良い。家でも家族にお茶を入れたい」と話しました。



職員に教わりながらお茶を入れる児童

日頃の活動成果を発表

女性部富士地区本部が文化祭開催



女性部富士地区本部は10月26日、富士市で文化祭を開き、部員248人が参加しました。

文化祭では14支部が制作した手芸や花の寄せ植えなどの作品展示、8支部による朗読劇やフラダンス、スコップ三味線などの舞台発表を行いました。

部員たちは日頃のグループ活動の成果を披露し合い、楽しみながら交流を深めました。今後もさまざまな活動を通じて仲間づくりに取り組みます。



日頃の活動の成果を舞台上で発揮

サツマイモ加工品の販売開始

御殿場地区干し芋は約4万袋を生産予定



御殿場・小山さつまいも加工品生産組合は12月上旬から干し芋の販売を開始します。

御殿場地区の干し芋は、半生タイプのしっとり柔らかな食感と濃厚な甘さが特長。「ファーマーズ御殿場」をはじめ県内のJAファーマーズマーケット・直売所、スーパーなどに並ぶほか、「JAタウン」でも取り扱っています。

冷やして食べる焼き芋も年々人気が高まり、今年は生産量を増やします。



貯蔵して糖度が増したサツマイモを確認する職員

廃プラ燃料で循環型農業

多方向から農業経営を支援



三島函南地区は、生産者グループ「のうみんず」と廃ビニールを回収する「ヤギシ」と連携し、「豊富士商事」の油化装置で生成する廃プラ燃料の循環型事業を始めました。

9月27日には、当JAの播種機利用施設で排出した廃ビニールの引き渡しを行いました。生成した燃料は同グループが利用。廃棄物処理費の削減や燃料高騰対策として農業経営を支援しています。



廃ビニールを提供する「のうみんず」メンバーとJA職員

ワサビ販売力の強化へ

市場関係者を招いて現地研修会



伊豆の国わさび委員会は10月24日、関東や関西、中京地域の市場関係者22人を招いた現地研修会を伊豆市の天城湯ヶ島、中伊豆両地区のワサビ田で開きました。参加者は生産者に教わりながらワサビの収穫・出荷調整作業や箱詰め作業を体験しました。

塩谷美博委員長は「ワサビは全て手作業。実際に体験し、伊豆のワサビへの理解を深めてもらうことで販売力強化につなげたい」と話しました。



ワサビの収穫作業を体験する市場関係者ら

繁忙期の農家を職員が支援

農業への関心を高める



伊豆太陽地区では農家支援と職員の農業に対する意識向上を目的に、同地区の全職員が繁忙期の農家を支援する農家支援活動を毎年行っています。

9月13日には河津町のイチゴハウスに職員が出向き、苗の定植作業を手伝いました。参加したJA職員は「苗の間隔や植える方向に気を付けながら丁寧に植えることを学んだ。農作物への気配りが大切だと分かった」と話しました。



イチゴ苗の定植作業をするJA職員

めぐりチャレンジ事業で挑戦へ

畑わさびを試験栽培



あいら伊豆^{そさい}野菜部会は、部会の活性化と部会員の農業所得向上を図ることを目的に、新たな作物「畑わさび」の試験栽培に向けた講習会を開きました。

「畑わさび」の産地である伊豆の国地区の日吉新トップ営農指導員が、栽培管理の方法を説明。実際に播種作業を行いました。

今後は、事前に行った土壌診断をもとに個々の畑で育成し、試験栽培を行っていきます。



ワサビ担当の日吉トップ営農指導員(左)が播種方法を説明